

ハート・オブ・ゴールド



通信

vol.45

2021年7月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org
https://www.hofg.org/



NPO HG ブックレットシリーズ — 共に育つ — ②

「カンボジアに体育教育がはじまった」発刊

事務局長 田代 邦子

20周年記念事業の出版企画がようやく形になりました。できるだけ読みやすいようにと、何度も編集を重ねました。ほぼスタッフで手掛けたため、執筆いただいてから思いのほか時間がかかりました。

カンボジアでの体育科教育は「スポーツを通じた開発事業」として、教育・青年・スポーツ省、地方教育局、教員養成校や現場の小・中学校と、多くの方々に参加いただきました。現在では、カンボジア初の4年制体育大学の開校に発展し、未来を創る壮大なプロジェクトに成長しています。

※お求めは、ハート・オブ・ゴールド、またはふくろう出版まで。全国の書店でも注文可。Amazonでも販売しています。

日本でも、JICA、外務省などの政府機関をはじめ、小・中・高等学校・大学の生徒や教員の方々、地方自治体、企業、団体など、草の根のネットワークが大きく広がりました。HGは小さなNPOですが、「スポーツは未来を変えられるのか？」と自問自答を繰り返し、意見の違いを乗り越えて、お互いを信頼し、丁寧にコミュニケーションをとってここまで歩んできました。ここに20余年の足跡を感じていただけますと幸いです。

これからもスポーツや教育をとおして、共に歩み、共に育つことを目指していきます。

カンボジアにおける新型コロナウイルス感染症の状況報告

— 東南アジア事務所より —

カンボジア政府は、2020年1月に初の感染者を確認し、同3月に全国の学校を閉鎖するなど、感染防止対策を強力に進めました。そのため感染者も500人未満、死者0人に抑えられ、2021年1月には学校が再開され、人々の生活もようやく元に戻るとされていました。

しかしながら、2月20日にプノンペンで初めての大規模な市中感染が発生し、その後も都内の工場や市場で感染爆発が起き、プノンペン全域が封鎖されました。さらに感染は全国に拡がり、6月5日現在の累計感染者数は33,613人、死者252人。毎日数百人の新規感

染者が出る深刻な状況が続いています。

医療基盤が脆弱なカンボジアは、政府が感染拡大防止に全力を挙げており、6月3日現在ワクチン接種対象人口約1,000万人のうち26.88%が第1回目のワクチン接種、20.95%が第2回目の接種を終えました。教職員もほとんどがワクチンの接種を終えています。

シムリアップでは、まだワクチン接種が一般に始まっていませんが、6月中旬に首都、今年中にすべての対象者にワクチン接種をする計画です。

不安な状況が続きますが、慎重に状況を見ながら、事業の目標達成に向けて活動を継続していきます。

【日本 NGO 連携無償資金協力事業】

国立体育・スポーツ研究所 (NIPES) 体育科コース 4 年制大学化プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

2月12日に在カンボジア日本国大使館において本事業第2年次の贈与契約を締結し、3月1日より事業を開始しました。

2月の市中感染による学校閉鎖のため、3月に予定していた「新しいカリキュラムに沿った教員マッチアップ・ワークショップ」を延期し、5月25 - 27日

にオンラインで開催しました。第1年次に作成した体育科コースの新しいカリキュラム・フレームワークとシラバスに照らし合わせ、各科目の教員の授業実施状況を把握し、更なる人材の育成を目指すもので、講義とグループワーク形式による初のオンライン開催で参加者も大変でしたが、日本体育大学の岡出教授も日本からのご参加



契約署名式にて三上大使（右）と



第2期工事 プール奥にジムルーム建設予定

で、オンラインの利点を生かした、活発なワークショップとなりました。

プール周辺のテラス、建物建設工事はロックダウン期間中は、建設材料の輸送ができず、中断。計画より1カ月遅れの8月末に完成予定で、その後、機材を搬入しジムルームを整備していきます。

【JICA 草の根技術協力事業】

カンボジア王国 小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ「Physical Education for All」プロジェクト開始

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹



「良い体育とは？」について議論する教育省担当官（プロジェクト導入ワークショップ）

2021年2月より、カンボジアの体育科教育支援の集大成ともなる事業として、プノンペン都、バタンバン州、スヴァイリエン州の全ての小・中・高に、「知識・技能・態度」を学べる体育を普及するプロジェクトを開始しました。

3モデル都・州には、1,075校の小学校、263校の中

学校、88校の高等学校があり、各都・州や郡の教育局と協力し、全ての学校に新しい体育を普及していきます。対象校に新しい体育を紹介し、うち50%が体育授業評価シートに基づいた質の高い体育が実施できていることを目標としています。

3モデル都・州において、教育省、州・郡教育局、各学校が互いに協力して新しい体育を実施できる体制を構築することにより、事業終了後、教育省が独自で残りの22州に普及していくことが可能となり、持続可能なカンボジアの体育が確立されます。

パラ陸上支援事業

パラ陸上競技会を開催するため、2月4日より40日間、クラウドファンディングを行い、73名の方から948,000円のご支援をいただきました。グロップサンセリテ WORLD-ACの松永仁志氏、プロアスリートの山本篤氏から応援メッセージをいただき、多くの方にカンボジアのパラ陸上について知っていただく機会となりました。

しかし、2月の市中感染により、3月26-27日に予定していた大会は延期となり、カンボジアパラリンピック委員会と状況を確認しながら、開催



手作りの道具で自主トレ

プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

に向けた調整と準備をしています。

また、例年は12月第1週に開催しているアンコールワット国際ハーフマラソンも延期、2月6-7日にバーチャルランとして開催されました。当日は、パラランナーをプノンペンとシェムリアップの2チームに分けて招集し、計70名がそれぞれ記録を取りました。

様々な大会の中止や延期、トレーニング場であるオリンピックスタジアムも閉鎖されており、選手は自宅でそれぞれ工夫してトレーニングを行っている状況です。

東南アジア事務所（プノンペン）現地スタッフ紹介

「コロナ禍における近況レポート」から

■ N 連事業、JICA 事業担当



ケオ・ソチエトラ（サブ・プロジェクト・マネージャー）

ロックダウンとなった地域は、ゴーストタウンのようで、ポルポト政権の内戦時代を思い出しました。両親は高齢で子ども達3人は1年以上学校に通えず勉強ができません。こんな状況ですが、プロジェクトを続けています。ネットで業務指示やオンライン会議を行い、常に連絡を取り合って情報共有しています。私はHGから困難に立ち向かうことを学びました。



ロン・スライリン（アドミニストレイティブ・リーダー）

みんなの健康、仕事、経済を心配しています。特に貧困層の人々は深刻です。このような中で私は、IT技術を学ぶこと、健康のため運動をすること、家族との時間を大切にすることなど心がけています。日本は、カンボジアの若者にとって尊敬する国で、希望と勇気を与えてくれます。これからも日本からいろいろなことを学びたいです。

■ N 連事業担当

フン・ダリス（プロジェクト・アシスタント）

今、私はとても小さな人間であることを実感しました。そして家族や友人のメンタルヘルス、健康、生活状況が心配です。所長をはじめ、スタッフはいつも気にかけてくれて、向上心を持って仕事を続けることができます。



ソク・ヴィンダ（プロジェクト・アシスタント、パラ事業兼務）

4月に自宅近くの工場で多くの感染者が出たため、町はロックダウンされ外出が禁止されました。パラ陸上競技会は延期され、障がい者ランナーは、自宅でのトレーニングを余儀なくされており、彼らの技術の向上や体力が心配です。私は自宅の小さなベランダで植物を眺め、心を落ち着けて過ごすようにしています。



■ JICA 事業担当

コン・シヴレン（プロジェクト・リーダー）

多くの人が職を失い、貧困の危険にさらされています。カウンターパートやスタッフとITを通じて常に情報共有しています。ポジティブに考え、いつかこの状況を乗り越え、今後もお互い支え合っていけることを信じています。



ヴォン・ヴィライ（プロジェクト・アシスタント）

この感染症は怖いです。なぜなら人間がお互いに安心して接することができないからです。基礎疾患を持っている祖母と父が心配です。他の国はロックダウン後、感染者が減ったと聞きます。政府の要請に従うことで、私達もこの危機的状況から救われると思います。週に1回Zoomを使ってオンラインミーティングで情報共有しています。



モム・チャンマリー（プロジェクト・アシスタント）

この緊急事態をとっても心配すると同時に、誰もが助け合うことができる素晴らしい機会かもしれないとも思います。HGで働き始めて1か月で、在宅勤務となりました。スタッフはみな理解力があり、チームとして助け合い、一生懸命仕事をしています。私をいつも元気づけてくれます。



HG ももたろう日本語学校

事務局次長 井上 恭子

1月開講クラス(1-6月期)は、オンライン授業を始めて3期目となりました。画面越しの授業は、指導する先生も、教わる生徒もしっかり顔が映り、教材も明確に提示されます。真剣に取り組めば、効率的に学習できるはず。教案や教材の作成には工夫が必要ですが、コンピューター上で完結できるのも効率的です。今は、これでやっていくしかない、日本とカンボジアで2時間の時差を乗り越え、90分授業を一日5限、週5日、先生4人が一丸となってやりくりしています。

本部のスタッフも参加して、オンライン学校説明会を実施しました。特に、学生が一番関心を持っている日本語を学んだ後の進路について、技能実習生・特定技能実



習生や留学などコース別に説明しています。また、個別相談でも対応しています。

日本語能力試験が昨年7月と12月、そして今年の7月も中止となり、目標であり、成績を証明する機会を失い、日本で働く目処が立たない閉塞感に陥る学生もいます。在籍している学生それぞれの希望に沿ったサポートをしていきます。

アジア高校生架け橋プロジェクト（(公財) AFS 協会、文部科学省補助事業）に参加する高校生から、期間限定の日本語クラス開講の要望がありました。国際交流基金が新たに制作した「いそどり：生活の日本語」を主教材として、指導を行っています。

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

— 指導員 ビー・タイリー、チュート・スライノッチの報告より —



ロックダウンに備えろ！

4月にはNCCCのあるシェムリアップも一部地域でロックダウンになり、州間のみならず、州内の移動も制限されました。中心部への立ち入りは、IDカードや勤務証明書に加え、通行許可証が必要となりました。

危機管理対策として、本部は予めオンラインで打ち合わせていました。市内で感染拡大が起これば、スタッフやその家族の感染が判明した場合、子どもの世話をどのように分担するか、補充人員は誰にするか。NCCCの子どもの感染が判明した場合、どのように対応するか、など様々なケースを想定して準備をしました。

子ども達の父親代わりでもあるタイリーさんは、日本語学校のナムオイ先生と協力し、スタッフの通行許可証の申請に4度も警察等に出向いて、ようやく取得するこ

事業広報部 平井 利恵

とことができました。更なる状況悪化で、子ども達の食料がなくならないように、備蓄用の買い出しに出かけ、乾物や缶詰、お米はいつもより2週間分を余分に買い置きました。予備の現金や日用品も用意して備えました。市内は、物価が上昇し、商品は品薄になりました。

クメール正月はミニ運動会で楽しく♪

学校が休みのため、子ども達はほぼ外出することもなく、一日中NCCCで過ごしています。時間割を作って勉強をしたり、畑仕事をしたり、掃除、洗濯、食事づくりをしたり、年齢に応じてできることをしています。



また、昨年が続いて、今年のクメール正月も子ども達は里帰りができませんでした。スタッフが企画し、ミニ運動会を開きました。麻袋に腰まで入って速さを競うゲームは、とても盛り上がりやすいです。子ども達の笑顔から、大はしゃぎの音が聞こえてきそうです。しっかり体を動かした後は、皆で楽しくごちそうを作って、おいしくいただきました。

東南アジア事務所シムリアップ支所現地スタッフ紹介 「コロナ禍における近況レポート」から

■ HG ももたろう日本語学校

コール・ソティアラ（日本語教師） ※写真右

感染がひどくなって、外出、移動が制限されて、仕事も減ってきています。私はオンラインで授業をしています。物資がなくなるかもしれない時、本部は2か月分の給料を仮払いしてくださったので、お米や調味料を購入できました。とてもうれしく思っています。これからも学生達に、日本語や日本の文化など、もっと知ってもらうように頑張りたいと思っています。

カン・ナムオイ（日本語教師） ※写真左

カンボジアは、2020年3月より、すべての学校は休校となっています。HG ももたろう日本語学校も日本からの支援で、オンライン指導の環境が整いました。しかし、勤労学生がほとんどで、せっかく学んでもコロナ禍で仕事がなくなり、日本語の勉強をやめなければならない学生が増えています。私もティアラ先生も、困難な状況にある学生に、日本語の勉強を何とか続けさせたいと思い、その方法を考えています。



HG ももたろう日本語学校スタッフ

NCCC スタッフ



■ NCCC

ビー・タイリー（ローカルスタッフリーダー） ※写真左

ほぼ1年近い学校閉鎖で、子ども達の学習の遅れが、とても心配です。そんな中で、オンライン学習の環境が整ったことが幸いです。NCCCにコロナウイルスが入ってこないよう衛生面で細心の注意を払うと同時に、もしもの時に備えてスタッフで相談しながら対策を講じています。

今ほど子ども達の健康を願うことはありません。

チュート・スライノッチ（生活指導員/日本語教師） ※写真右

市場で感染が出て、各市場が閉まってしまう大変でした。お米や野菜、麺類などを用意できる家庭はまだ大丈夫ですが、収入がなくなった家庭は家で野菜を採ったり、池に魚を捕りに行ったりしています。NCCCの子ども達は、日本の皆さんが気にかけてくれて、（楽しく）生活できています。手洗い、うがい、マスク、消毒などしっかりして、勉強とお手伝いを頑張っています。

イム・ピセイ（生活指導補助員・調理担当） ※写真中央

あいている市場に出かけて行って、子ども達のために栄養を考えて、元気になるものを作っています。でも、牛肉、豚肉、調味料、野菜などは、前と比べたら値段が上がりました。

大変な状況ですが、みんな頑張ります。心配と応援、ありがとうございます。皆様もお気をつけてください。

NCCC から留学、そして就職

ロッチ・スライホーム



皆さん、こんにちは。6月に介護施設に正職員として就職できました。日本で働けるようになったのは、たくさんの皆様が応援して、背中を押してくださったおかげです。ハート・ペアレント様、岡山学芸館高等学校の皆様、ハート・オブ・ゴールドの皆様、本当に心から感謝しています。ありがとうございます。

今は、一人暮らしをして、自分で料理を作ったり、買い物をしたりして楽しい生活を送っています。職場では、皆さんから色々なことを教えていただきながら、段々仕事に慣れていきます。私は、スタッフの皆さんのように立派な介護福祉士になりたいと思います。

これから仕事をしながら、介護福祉士を目指して、また頑張って勉強したいと思っています。もっともっと成長して、家族を支えられるようになりたいので、私のことを見守っててください。

オンラインでつながる

5月18日、第三藤田小学校6年生の皆さんに、Google Meet で出前授業を行いました。岡山市から一人一台配付されたタブレットをとおして、画面上で児童の皆さんの表情がとてもよくわかりました。

6月21日には倉敷仏教会、及び高野山真言宗南真会の方々に、有森代表とスタッフからの活動報告、あわせてカンボジアや日本のコロナの状況、スポーツについていろいろとお話をさせていただきました。



コロナ禍で、遠く離れた方、なかなかお時間の都合が合わなかった方も、お話をする機会をいただけるようになりました。ハート・オブ・ゴールドをもっと知っていただくために、今後もオンラインを活用していきます。

ハート・オブ・ゴールドのスタッフとして

事業広報部 平井 利恵

昨年7月から本部事務局で勤務しています。現在、ハート・ペアレント様の手続き、NCCCの報告を担当しています。あわせて、事業、広報の補助をしています。

ハート・ペアレント事業では、会員の方々の温かいお気持ちや、子ども達の成長をみることができ、改めて「支えあい」の力を感じています。コロナ禍で日本に帰国中の村上先生からは、子ども達の日常や、カンボジアのいろいろな様子を聞くこともでき、より身近に感じられています。

このような状況でも決して諦めず、社会的な弱者を支えていくという熱意を会員の皆様と共に、かたちにします。その力になれるよう、常に感謝を忘れず頑張っていきます。よろしく願います。

2020年度 第23回 通常総会

6月18日(金)、オンライン形式により通常総会を開催致しました。2020年度事業報告並びに決算報告、2021年度事業計画並びに予算、役員改選や定款変更ほか、全ての議案が承認可決されました。

なお、理事は、君原健二、高石ともや、田中浩一、中島博、羽場仁志、前芝辰二(50音順・敬称略)の6名が退任し、合澤栄美、大倉宏治、神崎浩二、松田久(50音順・敬称略)の4名が新任となり、新役員体制は、理事9名、監事2名となりました。

主な活動報告(2021年前半)

- 1月6日 東洋大学オンライン講義
- 1月14日 岡山市立第三藤田小学校 NCCC とのオンライン交流会
- 2月1日 JICA 草の根「PE for ALL プロジェクト」開始
- 2月3日 小田原市立酒匂中学校 出前授業
- 2月4日 パラ陸上競技会クラウドファンディング開始
- 2月5日 岡山市立第三藤田小学校 出前授業
- 2月6日 第25回アンコールワット国際ハーフマラソン(ヴァーチャルラン)
- 2月12日 外務N連贈与契約式(プノンペン)
- 2月19日 岡山県 JICA デスク「スポーツ×国際協力オンラインイベント」活動報告
- 3月1日 外務N連「NIPES 四年制大学化プロジェクト(2年次)」開始
- 3月3日 岡山大学付属中学 キャリアアップ授業
- 3月31日 20周年記念誌 発行
- 5月18日 岡山市立第三藤田小学校 オンライン出前授業
- 5月30～31日 JICA 高校指導書作成ボランティア説明会
- 6月17日 理事会・総会
- 6月21日 倉敷仏教会オンライン報告会
- 6月30日 朝日塾小学校 出前事業

主な活動予定(2021年後半) 変更あり

- 7月 HG ももたろう日本語学校 2021年7月期スタート
- 7月15日 (仮) 国際交流基金活動報告会
- 7月15日 朝日塾小学校 NCCC とのスカイプ交流会
- 11月 第11回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国
- 12月2日 第26回アンコールワット国際ハーフマラソン(シムリアップ)

ハート・オブ・ゴールドへのご寄付は 税制上の優遇措置が受けられます

「認定NPO法人」として認定されており、寄付金すべてが寄付金控除の対象になります。個人であれば所得税や相続税が、法人であれば法人税が優遇されます。(会費、イベント参加費、物品購入費等は、控除の対象となりません。)

【個人の場合】 所得税控除 ※税務署への確定申告が必要です

「寄付金合計より 2,000 円を差し引いた金額× 40%」が所得税から控除されます。(税額控除方式)

*対象となる寄付額は、年間所得の 40%が限度。

また、控除額は所得税額の 25%が限度。

*所得控除方式を選択することもできます。

この他に住民税、相続税が寄付控除の対象になる場合があります。住民税については、全国一律ではないため、各自治体にお問い合わせください。

【法人の場合】 法人税控除

一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。

詳細は、税務署にご相談ください。

※寄付金控除の還付を受けるためには、ハート・オブ・ゴールドが発行する「寄付金受領証明書」(領収書)が必要です。ご入金より一ヶ月以内にお送りします。再発行はできないため、確定申告時まで大切に保管してください。

※ご寄付の際には、住民票に記載のお名前とご住所をお知らせください。また、郵便振替以外からご入金の場合は、別途、お名前、ご住所、連絡先をメール、FAX 等でご連絡ください。

事務局より

***新スタッフの紹介**

4月より、森洋貴が東南アジア事務所に配属となりました。JICA 事業を担当。

***会計から法人会員の皆様へのご連絡**

業務の簡素化を図るため、年会費納入にあたり、振込の場合、領収書の発行を今後省略させていただきます。なお、領収書が必要な場合は事務局までご連絡ください。

***HG 会員募集!**

友人・お知り合いの方をお誘いください。

個人 1口 3,000 円/年、法人 1口 30,000 円/年

***ボランティア・インターン募集!**

本部事務局にて、事務補助、翻訳、イベント補助をしてくださる方。

***集めています**

書き損じはがき・未使用の切手・クオカード・商品券などご寄付ください。

***メールアドレスの登録をお願いします**

経費削減のため、通信やお知らせ等をメール配信する準備を進めています。メールアドレス登録にご協力いただける方は、右 QR コードをスマホ等で読み込み、メールアドレス登録用の画面で手続きしてください。



*ご質問があれば、事務局にお問い合わせください。



続ける。続けるために。

続ける。誠実であることを。
日々、課題に向き合い、応える。

続ける。協力し合うことを。
尊重し合い、多様な知恵と技術で成し遂げる。

続ける。イノベーションすることを。
しなやかに発想し、挑戦する。

本当に大切なことが続くために。

私の“続ける。続けるために。”

続ける。明日のリサイクルのための提案を。
循環型社会を支え続けるために。

ごみはリサイクルされればその瞬間から資源です。私はリサイクル施設のメンテナンスを担当するエンジニアとして、できるだけお客さまのニーズをくみ取ってフィードバックしていきたい。それが全国のリサイクル施設の改善につながり、循環型社会を支える助けになればうれしいです。

サービスソリューション事業本部 資源環境事業部
資源環境技術部

山崎 至紘



川崎市 王禅寺処理センター資源化処理施設 点検整備委託業務

ペットボトル、カン、ビンなどの資源ごみをリサイクルするために選別し、圧縮梱包する施設。メタウォーターが施設の設計・建設を行い、現在はメンテナンスを担当している。

山崎は、資源環境事業部のメンバーとして、設備更新の見積もり提案、受注後のプロジェクト管理などを担当。循環型社会の担い手として提案を続けている。

